



震災から1年4カ月経った陸前高田市を見てまわる参加者。

四国4生協がお菓子を きっかけにサロンで交流

いわて生協が被災地で開催する「ふれあいサロン」に、四国の4生協が月に1回、地元の銘菓をお茶菓子として提供することになりました。7月10、11日は、4生協から代表のメンバーがいわて生協の「ふれあいサロン」を訪問。参加した方々へ直接お菓子をお渡ししました。

夏草に覆われた線路跡、 がれきの山に言葉なく

四国の4生協（コープえひめ、こうち生協、とくしま生協、コープかがわ）は、いわて生協が被災地で開催する「ふれあいサロン」に、5月より月に1回、地元の銘菓をお茶菓子として提供しています。そのつながりで、四国4生協のメンバーが、7月10、11日、いわて生協の「ふれあいサロン」を訪問しました。

訪問したのは職員・組合員理事ら10人。陸前高田に着いた一行は、いわて生協監事・被災地支援担当の飯塚



絵手紙を仮設住宅からの方からプレゼントされる。

郁子さんに案内されて、津波で壊滅したまちの状況を見てまわりました。夏草に覆われた大船渡線の線路跡、川の途中で消えている陸橋、えぐられた護岸、波の力で剥がれたアスファルト。「河口から4キロも離れたところまで津波は来ました。このあたりにはずっと建物が立ち並んでいました」。飯塚さんの説明に全員、言葉がありません。当日は震災から1年4カ月目の11日。道路沿いには行方不明者の捜索をする警察の姿もありました。

「ありがたい」との涙に 心打たれて

午後、一行を乗せたバスは、「ふれあいサロン」が開催される市内4カ

所の仮設住宅集会所に向かいました。

こうち生協の3人がサロン会場の中田雇用促進住宅でバスを降りると、ちょうど住民の方々が集まり始めていました。「あら、まだ早い?」「いいよ、いいよ、あがってください」。皆さん、サンダル履きで気軽に集まってきます。

いわて生協ボランティアチームリーダーの長牛和子さんから「今日は四国の生協の皆さんが来てくださっています」と紹介を受け、さっそく住民の方へお菓子を贈呈しました。お菓子に添えられた4生協の組合員のメッセージをこうち生協の扇谷京子さんが読み上げると、「ありがたいねー」と涙を見せる住民の方も。扇谷さんももらい泣きし、じんとくる心の通い合いでサロンが始まりました。

心のこもった絵手紙を いただきました

この日はサロンで、「絵手紙づくり」を行ないました。作業が終わりに近づいた頃、住民の方から「私たちは助けられてばかりなんで、お礼を言いたい」という声が上がりました。2枚作成したハガキのうち1枚を、四国の生協の組合員に贈りたいと言うのです。それぞれ「お菓子をありがとうございました」「気を付けてお帰りください」などのメッセージを書いたハガキを渡してくれました。

サロンは、笑い声が絶えず、住民の方は「こうやって笑うっていいねー。家の中にいるとこんなに大声で笑うことないもんね」と話していました。「遠いところからお土産を持ってきてくださった。もうそれだけで嬉しいんですよ」といわて生協のボランティアさん。お菓子を介した心の交流はこれからも続きます。